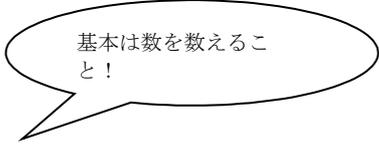


組み合わせと確率と期待値

確率

→ これは「集合論」の観点から学習するとよい



基本は数を数えること！

・ 確率

全体が n のなかで、条件に合う特定のことが起きる個数(事象)が m

$$\text{確率 } P = m / n$$

・ 期待値(≒平均値)

事象の値とそれぞれの確率との積の合計値

例題) 3つの封筒のうちの1つに1万円が入っている。1つだけもらえたとしたら？
1万円が手に入る確率と、手に入るお金の期待値は？

○ 手に入る金額とその確率の掛け算の総和から期待値を計算する

× 「0か10000だろ!？」 ... 高等教育的な発想ではありません